婦選獲得同盟會報（九）

昭和五年の年頭に

一九三〇年の新春は、私共に輝かしい。何故なら、今年こそ、私共は婦人公民權の實現を期し得るからです。全國一千名の同志諸姉よ、必勝を期して、善戰しやうではありませんか、一路獲得へ!!

昭和五年一月　婦選獲得同盟中央委員一同

萬歲！萬歲!! 日本婦選運動萬歲!!!

―十二月十四日の創立五週年記念會上にて―

國際通信一束

會務理事　市川房枝

▼ロンドン本部常設委員會日本委員決定

ロンドン本部の八常設委員會及國際財務委員會は、日本に於ける加盟三團體（婦選獲得同盟、日本婦人參政權協會、婦人參政同盟）を通じて、一名宛選任することになつてゐるので、之に關する協議會を十二月十九日開催し、左の如く決定した。

一委員數は九名を要するので、各團體三委員づつを分擔し其の責任をもつ事。

一委員會の種類は抽籤により左の如く決定した。

婦選獲得同盟
一、男女道德の一律
二、婦人警察官
三、婦人參政權に關する一般問題

日本婦人參政權協會
一、男女勞働の機會均等
二、平和及國際聯盟
三、國際財務委員會

婦人參政同盟
一、既婚婦人の國籍
二、私生兒及其の母親
三、法律上に於ける男女平等

▼本部より濱口首相宛の書信

昨夏ベルリンに於ける大會に於て、未だ婦人に參政權を附與してゐない國に對し、書面を發送することを決議されたので、今度本部會長コーベット、アシュビー女史及書記エミリー、グール女史の連名で濱口首相宛日本婦人に速に參政權を附與するやう勸說の書面が來た。

右書面は三團體代表者に依つて近く首相に面會の上直接手交する筈である。書面は「婦選」二月號に掲載したから參照を乞ふ

▼米國婦人戰爭防止研究委員會へメッセージ

婦風會副會頭ガントレット恒子氏は、個人の資格で米國婦人戰爭防止研究委員會へ出席する爲、十二月二十日橫濱出帆渡米されたが本會は同氏の出發にさきだち、同研究會長ミセスキャット宛に、我々は國際平和を一つの重要なる目的として參政權の獲得運動をしてゐる事、並に國際平和の招來の爲協力したい旨のメッセージを托した。

解散二つ

議會の解散に先き立つ解散二つ――一は對議會運動共同戰線として存在した婦選獲得共同委員會が、客冬十二月十九日に解散したのである。

この會は昭和三年三月十二日本會提唱の下に第五十五特別議會に對する共同運動の目的を以て組織されたので、當時の參加團體は、日本婦人參政權協會、婦人參政同盟、社會婦人同盟（後に社會民衆婦人同盟）全國婦人同盟、關東婦人同盟で、その後全關西婦人聯合會も加はり、婦選運動團體の左右全部を網羅して五十五議會への運動を行つた。而して更に同議會閉會後、改めてこれを存續せしむる事となつたが、關東婦人同盟は自體の消滅により脫退し、五十六議會には無產派は殆ど活動するなく、閉會后無產婦人同盟（全國と無產婦人聯盟の合體せるもの）より脫退の申込ありたる儘、休會してゐたのを、漸く久しぶりに會合して今後の方針を協議する事になつた所、社會民衆婦人同盟より「今后は社民黨と行動を共にする」といふ理由で脫退を申込んで來た爲、結局無產派全部が退いた以上、一先づこれを解散も殘りの團體は以前から協力もして來た團體故、新春改めて會合する事に決したのである。

今一つは、ガス料金供托同盟の解散である。本會は去年五月以來東京市會のガス值下運動を支持して實際運動を起し來つたが、六月廿七日無產市議團、各婦人團體と共にこの供托同盟を組織し、爾來街頭に、台所に熱心なる運動を續け、爲に幹部は供托加盟者としてガス供給停止の憂き目をも嘗めつゝ戰つて來たが、商工省の裁定は我等の主張通り却下となりて、會社は增資に成功せず、只殘る值下げ問題は、其后市會に於ても上納金增額などの妥協案により未だ決せず荏苒日を經るの狀態にあつた。

國會選擧や黨大會に無產市議團も多忙を極める樣子、他の婦人團體も長い實際運動に稍倦んでか振はず、遂に十二月十八日の協議會に於て解散と決定した。（參政同盟は已に九月初に脫退した）其後會社側では早速ガス供給を申込んで來て、諸方共今はガスを使ふ樣になつたが、この半歲を越える運動に我々は數へられる事は實に多かつた。

新入會者

十二月分合計四一名

正會員――廿八名

渡邊登女、紅葉末子（市川房枝紹介）磯邊貞子、山田たく子、朝川宣子、長屋駒子、岩井寛榮、近藤唯子、橫井雪子、村瀨梅子、森川悅子、齋藤秀尾（八木恭子紹介）釘宮あぐり、荒田八重子、石橋貞子（留岡よし子紹介）石川靜子、吉原きみ（藤田たき紹介）鈴木きく、（金子茂紹介）粟倉美雪、岡本綾子、新明あや子、三井あい（駒井靜子紹介）安齋トミエ（大橋豊喜紹介）山下ふき、南きよ、福川ふみ（田中芳子紹介）眞鳥智茂（山田わか紹介）山本朝（久布白落實紹介）

維持會員――八名

瀨木せき、風野とみの、都留いよ子奧澤とき、楠爾衛子、陸田鉦子、大原しげの、加藤まさえ（八木恭子紹介）

維持會友――一名

本間久雄（藤田たき紹介）

會友――四名

赤羽根銀作（金子茂紹介）服部隆義（久布白落實紹介）高島隆範（市川房枝紹介）城倉正晴（城倉美都子紹介）

正會員より維持會員へ變更　二名

玉口やす子、飯田しやう

退會者　七名

累計　一〇三六名
正會員　七八二名
維持會員　一〇六名
會友　一一九名
維持會友　二九名

會合豫告

□**中央委員會**（定例第一、第三金曜夜）一月二十四日、二月三日

□**委員長會議**（定例第一水曜夜）二月五日

急告

第五十七議會は憲政の常道を以て一月二十一日頃解散されます。

本會は今度の總選擧に對しては應援推薦等の選擧運動は一切止めて一意專心**婦人の立場より選擧革正運動に盡す事**に大方針を定めました。何れ詳細は解散と共に會報號外にて發表しますが、何卒本會々員としてこの方針の下に適當な働らきをして戴きたいと存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

對五七議會運動の報告

議會運動委員長　鹽原　靜

解散の風雲告げる第五十七議會の再會も迫るとの時、確定の事實を報告いたします。

去る十二月二十六日の開院式當日に、毎年の慣例の如く、民政、政友から別々に提出されました。前號にも書きましたように民政は總選擧の戰を控へてをるために、何等積極的には進まず、前議會に提出したそのまゝの形式であり、提出者に二三の變更はありましたが、賛成者の方は、參政權結社權は一名も附加せず公民權は十二名附加してゐますが、三法案共民政内閣の政務官になつた人は法規上削る事になりますから、その意味でむしろ賛成者の數は減じてゐますが、公民權に付ては提出者筆頭の三宅磐氏の盡力と山桝儀重氏(前代議士)の内部的盡力とを附記いたします。

民政側の三法案は、

▼參政權(衆議院議員選擧法中改正法律案)
提出者　原夫次郎、坂東幸太郎、加藤鯛一、深水清、杉浦武雄
賛成者三十二名

▼公民權(市、町村、北海道會法中改正法律案)
提出者　三宅磐、末松偕一郎、一宮房治郎、森田茂、加藤鯛一、杉浦武雄、坂東幸太郎、深水清、賛成者　八十六名。

▼結社權(治安警察法中改正法律案)
提出者　杉浦武雄、一松定吉、加藤鯛一、戸田由美、中島彌團次、深水清、木村小左衞門
賛成者二十八名

政友會は、前議會での言明の如く進むなら野黨であつても當然黨の政策中に加へるべき公民權でありますが、殊ら總裁が積極的であつても政策までには入らず、黨の内部では決定してをる問題であると云ふ幹事長や政調會長あたりの言明のみでありましたが、公民權案の提出者には從來の少壯議員でなく幹部級にするやうにとの犬養總裁よりの直接の注意もあり、その人選にかなり努力したのでありました。少壯組の諸氏には、參政權、結社權の同一提出者になつて貰ひました。

▼公民權(市町村北海道會法中改正法律案)
提出者　粕谷義三、井上孝哉、若宮貞夫、大口喜六、山口義一

▼結社權(治安警察法中改正法律案)
提出者　星島二郎、今井健彦、田子一民、武藤七郎、松村光三、西岡竹次郎、崎山武夫、寺田市正

右の二法案共(公民、結社)賛成者は政友會所屬議員殆ど全部で前者は二二三名後者二二六名であります

全會一致黨議を以つて提出と云ふ事であります、黨内をまとめるためには井上孝哉氏と星島二郎氏の努力を附記いたします。

參政權案は同日提出者の一人に手渡ししてあつたのでありますが、公民權案に主力をそゝぎ參政權案の賛成者を得る事が出來ず、そのまゝ休會を迎へてきましたが、再會日にでも賛成者數を得て提出したく交渉中でありますが、何分解散を目前にしては浮足立つ諸議員の眼に、參政權案が見えるかどうかとあやぶまれます。總べて今議會は單に記録に止まるだけであります。

會費と誌代について

去年の一月及び一昨年の十二月に御入會の方々の會費が切れましたから、本月中に封入の振替用紙にて、お拂込下さいませ。

又雜誌『婦選』は宣傳の爲十一月號より毎月御送り申上げて居りますが、まだ購讀申込も、中止の意志表示もして下さらぬ方が多數である爲、整理に困つて居ります故、これ亦何卒出來るだけ御購讀いたゞきたく、會費同樣、封入の振替用紙を御利用いたゞきたく存じます。

中央委員會報告

第十七回中央委員會

十二月廿日(金)后七時―十時

出席――鹽原、千本木、金子、坂本、大橋、久布白、市川、藤田、渡邊

缺席――河崎(病)藤間(事)田中山本(無屆)武田(事)

一、報告

1 日誌―十二月七日―十二月二十日
2 通信―發信二〇七七、受信三三七
3 ロンドン本部常設委員會日本委員選出に關する日本婦人參政權協會及婦人參政同盟との協議會報告
4 婦選獲得共同委員會解散に關する報告
5 ロンドン本部より首相宛書信來信の件
6 與謝野晶子氏生誕五十年祝賀會出席の件
7 聯合婦人會主催「不和の使者を送るの會」の件
8 ガス料金供托同盟解散に關する報告
9 五週年記念會會計報告
10 ガンドレット氏に、米國戰爭防止婦人委員會宛の書信を托したる件報告
11 會計報告
12 長野縣會に婦選建議案上程可決の件
13 各委員會報告

二、協議

1 ロンドン本部常設委員會日本委員選出の件婦人警察官は調査委員長藤田たき氏に、男女同等道徳律は久布白氏に、婦選一般問題は市川氏に決定
2 今後の對議會共同運動の件―必要に應じて連絡をとる程度とすること
3 職員の年末賞與及昇給に關する件
4 議會運動委員長鹽原氏宅電話の件―本年度の基本料を運動費中より支出すること承認
5 十二月の資金調達の件
6 總選擧對策の件――意見の交換をなす、決定は一月の第一中央委員會に於てすること

十二月會計報告

會計理事　坂本眞琴

▼借入の部　八七〇、九五

内譯	
繰越	三二、五五
借入金	一三〇、〇〇
正會員費	三二、〇〇
會友費	四、〇〇
維持會員費	四〇、〇〇
寄附金	六三二、四〇

▼支出の部　八七〇、〇五

内譯	
俸給、手當、賞與	二六三、〇〇
返濟金	二三〇、〇〇
家賃	四二、〇〇
光熱	五、七六
文房具	六、四八
通信	三八、四二
電話	〇、六〇
交通	一、一五
雜(臨時)	四一、六二
議會	二〇、六七
政敎	一、〇〇
會員	〇、七〇
財務	六、三〇
調査	四、三〇
出版	五〇、〇〇
會報	三〇、〇〇
印刷	一、〇〇
備品	三一、七五
記念會	九五、三〇

―差引殘高　〇、九〇

寄附金内譯

藤田たき氏(臨時)	一〇〇、〇〇
ガントレット氏扱(リスリー、コミッション寄附)	一〇〇、〇〇
吉田とみ子氏(特別寄附)	一〇〇、〇〇
進藤甲兵氏(同　上)	一〇〇、〇〇
岡田和一郎氏(同　上)	三〇、〇〇
ミセス、ポール(同上)(河井道子氏扱)	五〇、〇〇
市川房枝氏(給仕、事務員手當)	四八、〇〇
鹽原春子氏(臨　時)	二〇、〇〇
飯田しやう氏(同　上)	一〇、〇〇
瀨木せき氏(定額寄附)	一〇、〇〇
風野とみの氏(同　上)	一〇、〇〇
奧澤とき氏(同　上)	一〇、〇〇
都留いよ氏(同　上)	一〇、〇〇
楠瀨街子氏(同　上)	一〇、〇〇
時田鉦子氏(同　上)	一〇、〇〇
瀧藤愛子氏(同　上)	一〇、〇〇
金子　茂氏(パンフレット賣上)	四、二〇
竹内茂代氏(同　上)	〇、二〇

▼借入金内譯

金子茂氏より	三〇、〇〇
出版委員會より	一〇〇、〇〇

▼返濟金内譯

出版委員會へ	五〇、〇〇
市川氏へ	一〇、〇〇
金子氏へ	二〇、〇〇
市川藤市氏へ(皆濟)	五〇、〇〇
藤田たき氏へ(同上)	一〇〇、〇〇

右の樣な狀態で昭和四年を送りました。幸に特別寄附者から相當に集りました上、藤田氏の如き、借入金を棒引きに寄附にすると申出られましたので、返濟も幾分か果たし得ました。

年が變ると早速募金に大活動をいたして居り、成績も中々擧つて居りますが、その御報告は都合上、次號に讓ります。

支出で臨時費の多いのは、長野縣會派遣費や與謝野夫人賀宴出席費が出たからです。通信には會報發送代が含まれ、備品は記念會の爲に、事務所に多少物品家具を備へたからです。

■日本在住の一外人より■

―百圓の小切手を―

女子青年會―河崎氏―私へと二枚もの符箋がついて一通の英語の手紙が配達された。英語ではあるが外國から來たのではなく東霞ケ關としてある。開封してみたら中から三菱の小切手がころげ落ちた One Hundred Yen と書いてある。驚いて同封の手紙をみたら「新聞で記事をみた。運動に寄附する」と書いてある。うれしさがこみ上げて來る。貧乏な會にとつてのこの突然な寄附は全くありがたい。(市川)

十二月の日誌

二日(月) 事務所の机、戸棚の位置を變へる
三日(火) 午後婦選會議
五日(木) 市川氏横濱へ教化運動員の講演に赴く
六日(金) 夜中央委員會
九日(月) 兒玉氏社會民衆黨大會傍聽
夜金子氏長野縣會に婦選案上程の爲出發
十日(火) 午前參政同盟、參政權協會と三團體協議會開催
議會運動特別委員會開催
十二日(木) 記念會の準備にて大多忙
十三日(金) 創立記念會第一日、午前十時より地方代表、本部幹部犬養政友總裁、安達内相、各政黨本部訪問
午後五時より出版委員會主催の地方代表歡迎座談會
田中芳子氏母堂逝去に付、大橋豐喜氏會を代表して告別式に參列
十四日(土) 記念會第二日、午後神田駿河臺女子青年會小講堂に開催
夜同食堂にて有志晩餐會
十六日(月) 市川、坂本、鹽原の諸氏、民政黨政務調査會に出席
十九日(木) 共同委員會開催、市會委員會開催
廿日(金) 市川氏、ガントレット夫人を東京驛に見送る
會員委員會、理事會、中央委員會開催
廿五日(水) 事務所の壁塗り變へ
廿六日(木) 三谷民子氏よりクリマスプレセントの果物一籠屆く
出校正
廿七日(金) 出校正
廿八日(土) 理事會開催。『婦選』第三種郵便物認可となる
本日にて事務所を閉ぢる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

創立滿五週年記念會の催

◇

毎年十二月十三日こそは、我が婦選獲得同盟が此世に生れた當の記念日とて、創立以來何れの年もその時に應じての催を以て、精一杯お祝ひはして來たのであるが、昭和四年の十二月十三日こそは、實に滿五週年に當つたので、特にこの安心よりの悅びを祝ふにふさはしい催もがなとは、幹部のもの丶早くより心を碎いた所であつた。

顧みればこの一年は會の步み殊に著しく、四月の總會には思ひも及ばなかつた各方面への發展の實が擧つてゐる、かて丶加へて折もよし、解散を控えた議會への示威運動にも好機なれと、玆に十三、四の兩日を以て地方代表の出席を乞ひ、外は大に婦選が一部都會の婦人の運動ならざる事を當路の人々に示すと共に、內は目に見えて榮え行く會の現狀を、相共に喜ばうといふ計畫が作り上げられたのである。

◇

飛電、又飛電、歲末の家庭から主婦たる人を數百哩の遠地に引張り出さうといふ計畫は、中々容易ではなかつたが、遂にわれ等の志は通じて名古屋、長野、金澤の諸地方から合計九名の代表の出席が確定した。

折角の珍客を迎ふる爲に、事務所も煮え返る騷ぎ、盆に正月に、嫁取に出產といふ樣なうれしい混雜、議會運動委員長又歲末の巷を飛んで、第一日の豫定を成就せしむるに精根を費した。

◇

記念會第一日、十三日は早朝より事務所樓上は地方代表に充された。まづ長野よりは昨夜といふより今曉一時議會に於ける婦選案通過を見屆けて今曉着京の小笠原嘉子夫人に、赤羽根仲子、鈴木きく氏の三名。名古屋は、小尾ふさ子夫人の率ゐる湯場露子、藤原靜子二孃に、事務所には舊知の飯田しやう女史。最後は金澤支部長駒井靜子夫人及女房役の米山久子夫人。初對面ではあつても深い交りある人々の樣に、狹い事務所に笑み傾けられる。

◇

十時、この人々に幹部久布白、市川、坂本、藤原、金子の諸氏を加へた一行十數名を分乘させた三台の自動車は、四谷南寺町の犬養政友總裁邸の門外に止る。玄關には已に出迎の風鳥二郎氏や令息健氏の姿が見える。

導いて應接室に待つ間程なく犬養老は現はれて、快談數刻、記念寫眞の撮影にも快く應じ、大に婦選支持者としての長老ぶりを發揮される邊中々積極的で、公民權の實施など問題でないといふ譯、健氏又よくこれを援けられて一同大に欣ぶ。

◇

十二時近く本部に引上げ晝餐後、直ちに內務大臣官邸に赴く。內相外出不在なれど、其代應接室に待つ間に、齋藤次官、內ケ崎參與官などを捉へて、政府の公民權その他に對する態度を叩く。やがて前庭に自動車の音、藤原氏出でて玄關に於て大臣の袖を捕へ、直ちに拉し來つたが大臣の御機嫌頗るよく、最初藤原氏打合せの折は、一分か二分との約束でありし由なるに、一々地方代表を引見して、これ又快談の聲が溫まる樣子。『かうして御出かけて、おうちはどうなさる。』との問に、間髪を容れず米山夫人、『もう私共の田舍では冬支度の眞最中ですから、千本からの澤庵もつけ味噌もつけて出て來ました』『おう〱それでなうては』と大臣。そこをすかさず『それに乳吞をおいて來た事とて、この樣に乳が張つて困ります。どうか、かういふ女の申す婦選故、公民權なりと一日も早く御實施願ひます。』といふ鮮やかさ。

暫らくは娘や孫にせがまれるよいおぢさいさんに內相もなり了せた樣子。

選擧革正調査會にも、初めの革新派よりの提案中には、婦選はなかつたが、これを入れたのは自分、自分は婦人が政界淨化に大きな力を持つてゐる事をよく知つてゐる、緊縮政策も婦人の力で隨分助けられたなど話は中々切れない。催促の爲らしく姿を現はした事務官は此の間二度程追ひ歸された。

然し調子ばかりよくても何にもならぬ、今一度何とか捕へやうと、ゆるめたりつるめたり、久布白、坂本金子の面々水際たつた攻勢も、具體的には何の得るなく結局二時頃退出直ちに首相官邸へ。

◇

首相はとても會はないが、地方の方へ話の種のモダン官邸拜見といふ丈。但し閣部屋のムン〱するスチームに、あたら緊縮が泣かうといふ所やら、閣議室の椅子の座り心地やら實地見學は中々妙くなかつた。次で政友會本部、玆では幹事長森格氏眞正面から『あなた方は、反對黨へ行つても何卒と賴まれる。これでは困る』『一つ政友會だけ支持すれば婦選は明日からでも成就させやうといふ口吻。政友會も政策なり綱領に揭げて誠意の程を示せと金子女史が肉薄すれば理論は已に決定してゐる、只立法技術が難しいと、田子氏始め役人出身者が受ける。山崎政調會長山口義一總務の面々も見え、お待ち受けの陣容は相當堂々だが、同勢の誠意を認め得ずに引き上げる。幹部連はいつもの事故平氣だが、地方代表は印象が生々しいだけに、大分亢奮する。

◇

次の民政黨本部では、紅茶の御馳走が出たが、小山政務調査會長の當らず障らずの應對を名古屋代表の口惜しがる事、一宮、富田などの幹部連と和懇談して、與黨氣分の横溢を結局觀みがたなく辭し去れば巳に夜の幕は降りてゐる。一路新宿は中村屋の『婦選』の座談會へ、かくて一時は疲れと憤慨に口きくも物憂かつた一行は、印度料理に氷菓に元氣恢復と同時に、語るわ〱今日一日の收穫に對する忌憚ない批評を、辛直純粹の感想は『婦選』一月號にその儘收められた。

◇

記念會第二日、十四日の午后一時半より在京會員出席の記念會は、神田駿河台基督敎女子青年會小講堂に開かれた。

司會は渡邊とめ子氏、まづ東京市社會敎育課の映畫『われらの水』二卷の映寫に始まり、久布白總務理事の挨拶、藤原議會運動委員長の第一日の報告、河崎なつ子氏の創立の思出の話より、市川會務理事の會の現況について詳細な話があり、五年間の健實な步みを今更の如く喜んだ一同は、續いて地方代表の挨拶に於て金澤の米山夫人が强烈の辯にまづ敬服し、更に長野の小笠原夫人の切々の言に泣き、最后に名古屋小尾夫人の毅然たる說に深く動かされ、田子代議士の如きは流涕久しかつたと告白された。

豫定の協議題は時間の都合で『政事敎育普及方法』だけを金子幹事座長の下に討議し、已に迫る薄暮の中を、茶菓を開き名案の福引に一同笑聲を爆發させて、五時半めでたくこの催しも閉ぢる事が出來た。

◇

尙同夜有志會員は階下の食堂に地方代表を圍みて晚餐會を開き、星島代議士も來り加はり、これ亦興趣つくるなき會合であつた。

かくて二日に亘る記念會は豫定の如く終り即夜歸京の地方代表もあつたが、翌日迄滯京の許された方々には、竹內茂代女史招待の新橋演舞場に於ける『西部戰線』劇に土產話を一つふやし、元氣で歸宅されたのであつた。

思へば六年前二百余名を以て步み出した我が同盟は、此の一年を以て會員五百を算して千を突破し、支部及びこれに準ずる地方は關東、關西北陸、中國、九州に及び、正に昭和五年度に於ては公民權獲得の決戰に勇躍せんず勢の充滿せるを、我等はこの機會に於て目のあたり感ずる事が出來たのであつた。我等はこの深き欣びを錄して以て、この盛會に參集する事の許されなかつた地方會員の方々に傳へたいと希ふ。

> 長野の縣會に婦選建議案が提出され、十二月十二日夜半全會一致で通過しました。十日の土曜日に本部から、金子幹事を急派しましたがその顚末を報導する紙面がなくなりましたからどうか「婦選」一月號の同氏執筆「長野縣會の婦選案」を參照いたゞきたいと存じます。

記念會二日

ふさゑさんは一體どうしたの、金子さんは？あのね、電話——いえふさゑさんぢやないのよ、內相官邸よ——お客樣が見えてるのに困つちやふわね、あの座布とん、それからお茶をね——電話はまだなの——まあ〱ようこそ遠いと：：あらさう、內相官邸出た？一寸失禮——何のことはない、まるで盆と正月と、葬式と婚禮を一日に引きうけたやう。眞先に到着の名古屋の堀場さんが、まだ火の氣のない事務所の二階に座巾とんなしにペタリと座つて呆れてみとれてゐる中を、藤原さんが一人であはてる雜布と炭とりと箒と、何とかんと、グル〱まわりをしてゐる中に、遠慮も禁しもなくお客樣は集つていらしやるあらいやだ、せつかく昨日用意したテーブル掛が替へてないぢやないの——で、お客樣の目の前でテーブル掛を二つに切つてとり替へるといふうそもかくしもないところをお目にかけて、さてやうやく落ちついて「まあほんとに遠いところをようこそ」といふ樣なさわぎでしたら、それが脊の高いきれいなをばさまが泣き出したのでびつくりしたら、それが長野の小笠原さんで、縣會の婦選案通過から引つゞいての昂奮がつひ事務所に座つたら淚になつて、と說明なすつて又しても淚——。

× × ×

記念會の二日目。

うどんかけ一つ注文する電話口で「婦人參政權獲得期成同盟會」を長々とくり返してゐた五年昔と「婦選」の今日とではずゐ分な變り方です

加賀百萬石の御城下町、何事もアミダ樣の思召しと前世の因緣が女に祟つてゐた金澤にも、駒井さんや米山さんのやうなとんでもない嫁御寮がとび出す世の中。加賀の殿樣は草葉の蔭で憤慨もしませうが、早いの遲いの、酢だのコンニャクだのと、すべつたりころんだりしてゐる腐腦鎭さん達の頭を時代の波はさつさとのりこえて行きます。しやべる事が一段落つくとお茶——みかん二つとお菓子、それを食べながら福引がはじまります。婦選一手販賣の福引です。

久布白さんの名演說——しげり女史がよみ上げます。ハイ、私です——何をくれるのかと思つたらニカワ。久布白さんの名演說つて、きいた事がおありですか。何でも「アルプスの雪」と稱するものださうです。それで溫めるととける——。

婦選の後援者——これは困りました。だつてすばらしく大きい練馬大根、いくら「かくれた」方が多いつて氣の小さい人はもつて歸へれません。お次は市川さんへの贈物。何だと思召す？クリーム一個、せめてクリーム位おつけなさい、だと。これは小笠原原さんが引きあて丶早速市川さんに獻上。

河崎先生の話しぶり——大へんしぶくてうまいのださうでしておいしい澁柿。

しげり女史の仕事ぶり——よくきりまはす、で、ナイフ一挺。ところがこのナイフの餘り切れさうもないので金子さんはもつと切れるつて、貰つた人が憤慨してゐましたつけ。

あのね、この人ずるいのよ、自分でもつてるくせに出ないんですもの。市川さんの兄さんです——部屋の隅から山田わかさんが密告(密告ぢやありませんね、大きな聲でどなつたんですから)したので、とうとうみつかつて、市川さんが鉛筆一本お兄さんのところへ持つて行かれました。調査委員會の人々——頭の働くところが鉛筆と同じなのですつて。

五十六議會の公民權——暗から暗へ——だから赤いほゞづき提灯なんて皮肉ですね。

皮肉られたからでもなかつたでせうが、來賓格の某代議士、福引の品物を渡してゐる斷髮の藤田先生をみて曰く「あの方は矢張り女の方ですね？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十二月十三日の記

名古屋　小尾ふさ

夜汽車で赤毛布のせいか、夜まどろみもせず、苦しい〳〵十三日の朝を迎へた。東京の空はいやに煤ぶつてゐて小雨さへしてハキつかぬ。早速ホテルで一風呂浴びた少し人間らしくなつて朝食を取る。いよ〳〵本舞台の婦選獲得同盟本部へと向つたもう私達がしんがりだ、長野縣や金澤市の方達とつくに來て居られて一寸きまりがわるかつた。早速犬養總裁私邸を訪問する。東京本部の代表者、久布白落實、市川房枝、金子しげり、竹内茂代、坂本眞琴、藤原静の各女史を初め各地方から熱心なる會員とが婦選獲得同盟の創立五周年の記念祝賀日に際して、少しでも婦選案の進歩のために、からした企てが催ほされたのである。大政黨の總裁私邸にしては門から玄關のあたり大した裝飾もなく通された應接室の小さい事一寸したお庭、思ひの外に氣安さを感じて犬養さんに御目にかゝらぬうちから何んだかイ、おぢいさんのやうに思はれた、つゝましく御女中の差出される御茶を頂戴してゐると秘書役を務められる有名な御令息が如才なく應對されるあたり實に平民的でいゝ。

此間名古屋での政友會大會に婦人の來會者もあつて中々地方的にも婦選は必要を感じて來てゐる、と大した理解ぶりに皆喜んでしまふどうか天下を取つた時までこの理解があつてほしいものだと祈りつゝ邸を辭す（此の日犬養總裁を中心にして新聞社のカメラに入つたものが私達の歸名せぬ間に名古屋の中心地榮屋のウインドに長い間、さらされてあつたのも婦人を問題にしかけた世間の波であらうと吾々女のために慾を强うするものである）。

午後は安達内相の官邸を訪問する蒸し暑いお天氣、剩さへスチームが通つてゐたので何が緊縮なのか、いらぬ石炭を使つて。大臣は實科會へ行かれたとかで、しばし應接に憩ふ其の間に政務次官の齋藤代議士と參與官の内ケ崎代議士とが出てこられた、次官の齋藤代議士あの梅干のやうに瘦た皺クチヤの顔に旗竿のやうに細い體、見るからに癪の種、何んだ次官位が、と横つらの一つもなぐつてやりたくなつた。案の條婦選の婦の字もわからぬ、世界の思潮等わかりさうにもない。金子しけり女史が笑ひながら一寸皮肉られたら、さすがにあの梅干チ、が面に紅葉して早々に引こんだ處は一寸嬉しかつた内務省の政務次官があれでは國家の前途があやぶまれる。あゝした死んだやうな血の氣のない政治家は、どの方面でも生きた人間に通用しさうはない、腹がへれば飯も食ひたくなるのが生き物だ：：そこへ行くと内ケ崎代議士は餘程　世の中の樣子もわかりさうだ、さすが早大の教授だけに婦選についても理解があり血管のある人らしい、内ケ崎代議士一肌ぬぐ勇氣はありませんか？、しばし待つと内相の御歸りで自動車から降りられる處を藤原女史が大臣外へはやらじとすぐ私共の前に内相の姿を現はす、名古屋の評判では安達さんは物のわかりのよい方とばかり思つたのに天下取ると、わからなくなるのか、なんて煮え切らないのであらう、自分の首をなげ出しても内相として世界的に我國女性の位置の向上をはかつてもよいではないか。大臣の奥樣も女であらうに、人間味のない枯木の感じだ、うんと金があつたら演說會を催ほして大臣とは人間に非ず枯木に似たりと、日本中歩きたい、せめて名古屋の婦人方には說明をして歩かう。政黨内閣の弊害を少しでも早く知らせる事が出來るから一例は大臣の言葉ソノマ、「婦選なんて貴女方の頭の白髮になる頃でせう」とこんな事を平氣で口に出來る人が内相の内は我が日本の女子敎育の進みやうはない「内相として一つ出來ない乍ら貴女方の味方となつて大いに向上發展の道を開かう」と云ふ可きではないか、一寸十九世紀の感ありか、野黨の時は、わかつても大臣の椅子につくと苦しかつた夢はわすれると見える。もう少し日本國民の事を思つて頂きたい女だつて八千萬の半身ですから、窮鼠かへつて猫を噛むのたとへもある民衆は恐かも知れないが、民衆の力は偉大である。

内相に思ふ存分馬鹿にされて政友會の本部を訪れる、さすが大きな政黨だけに混雜して居るがだらしない事夥しい、どこへ行つても政治にたづさはる人は人間ではないのかナア婦選は黨の要項へ入れるから大いに婦人は政友會を援助するであらうの商取引の餘りの露骨さに開いた口が閉がらない。

首相官邸にくる（一名モダン官邸）私の子供がお母樣は東京へライオンをつかまへにいつたと先生に話したさうだ（四ツ　五ツの子供が）ほんたうに的中々々、大いに質問を携へていつたのに、逃げるべし姿を見せずに隱れたが勝だ、ライオンもあの鬪かさにスチームを入れて、ゆで蛸のやうになつて晝寢でもしてゐたのであらう：：男だけは日本人で、女は月の世界から飛んできたとでも思つて、たまげたのであらう：：：そこへ行くと紅一點ともいふべき星島代議士には感謝で胸が張りさけさうだ。

民政黨の本部は少し秩序立つてゐてきれいであるが代議士連中女につかまつては困ると思ふのか一生懸命逃げるにかゝつてゐる、然も當地選出の小山代議士、加藤鯛一代議士等御國座邊りで演說を遊ばす時は常に口に民衆を叫ばれるのに、やつぱり彼等は特權政治家なのか投票を得んがための民衆叫びなのか、政務調査會長といふ元老でありながら、今は一寸いそがしいから十六日に來てくれとは何んと人を馬鹿にした事ではないか、わざ〳〵幼子を家においてはる〳〵東京へ來れた地方の婦人たちは、どれ位いそがしいかわからないではないか、いそがしいからと云つて逃げるのは實にヒキヤウである私はこれが我が代表かと思つて、いさゝか恥かしくなつた、昨夜の睡眠不足がたゝつて疲れた〳〵。これで日程も終つた體が綿のやうになつて夜は新宿の中村屋で印度料理をおいしく頂いた。

（新女性一月號より轉載）

ハガキ

▼本日一月號婦選拜受、一號は一號と躍進的の充實ぶり、まことこれなら何處へ出しても大威張に御座候。金十五圓御送附申上候間、婦選運動と婦人の要求七、婦人公民權の話七、ソヴイエト法と婦人の權利一、一月號殘金全部、大至急御送附願上候。一昨日安藤隆子氏にお願ひ致し幸せいたし候（熊本山下恒）▼昭和維新の第一年を迎へるに當り愈々活動を開始すべく圖らずも同志にして同窓なりし山下恒子氏と相議り、種々協議いたし居る次第、何分熊本に生れはしましたものゝ五六年も土地を離れてゐた爲、樣子もわからず、殊に堅實剛健を以て唱はれた當地の事とて因循此上なく、中々骨の折れる事と存じますが、少しでも婦人の覺醒の爲に盡せたらと、切なる願ひから、まづ手始めとして政治法律の研究會でも開いたらと存じて居ります。何卒宜しく御指導下さいませ。（熊本安藤隆子）▽新年をおよろこび申上げます。露支の抗爭から解放された仕合が手傳つて正月元旦は悠々した太陽に惠まれました。但し零下三十六度の嚴寒で町は眞白であります。國民政府の支那も今年から萬國並に正月が同一でありますので、近頃にない街の賑やかさに、新年の喜びを感じました（ハルビン栗栖蘭子）▲新年おめでたうございます。婦選毎號ありがたうございます。何とかして少しでもあなた方の運動がひろがるやうにと念じて微力を盡したいとは存じて居りますが、いつも仕事に追はれつゝ思ふに任せません。然しいつかはお役に立つ事もあらうと存じます。（新潟市敎育課中川秋坪）▼あたらしき御船出、新潮の群の色のかがやく巖のごとゆるぎなくいとも御安かれと祈り上げまつります。（日本橋紺野惠）▲昭和五年を以て婦選の獲得を期し得るやう祈ります。善く闘つて下さい（靜岡大谷英一）▼愈々政治季節何分御奮闘下さいませ。「婦選」實にあれでなければいけません。感謝と慶賀です益々御盡力下さい。私も時を得ば犬馬の勞に服させて頂きます。我が子の身の上と婦選運動は一日も忘れたる事なし（品川千葉とし子）

おことはり

一月の十日には御手許に屆かせる筈の會報が、今頃やつと出た始末を、御報告やらお詫びやら、取りまとめて申上げます。

昭和四年も暮の廿八日にどうにかからうにか夜逃げもせずに越せる事になつて、事務所を閉ぢはしたものゝ、殘務の整理に、市川さんも私も、卅一日迄例年の如く出所しましたが、そんな事は何でもない事でした。

一九三〇年のお正月も、それぞれの家で皆が無事に祝ひました。そして六日がお仕事初め、さあそこから狂ひが初まりました。

信州の家に歸省した兒玉さんが、歯の療治で、八日迄休むといふ手紙出所した連中の中では野津さんが、首に濕布をまいてゐます。

それでも六日の午后は、市川さん宅で職員の新年會をさゝやか乍ら、めでたくやり、同じ日の午后から夜にかけては、出版委員會の新年會兼初春早々の二月號編輯會議に、深夜の靜寂を破りました。

所が翌七日野津さんがまづ姿を見せません。又感冒の引き直しです。

と、珍らしくも市川さんが、その夜から寢込みました。扁桃腺炎です八日の委員長會議も、十日の中央委員會も、皆その枕頭でやる騷ぎ。

十日に兒玉さんが歸京する迄は、事務所は、私と、これもコンコンコンやつてはゐるが、元氣は素破らしい小泉さんと二人きり。どうにも會報編輯に手が廻らず、ままよと、石油箱で本箱を作つたりして、小泉さんの押入片附の應援なんかしてゐる内に二三日は經つて了つたといふ譯です。

でもまあ市川さんも床上げし、兒玉さんも日ましにふえる婦選購讀申込に、忙しい事務を擴げ出すと、よくも〳〵御念入りな、今度は私の所へ風の神の御入來です。

病氣は市川氏より拜領で發熱卅九度五分觀念の眼を閉ぢて、十一日夜から五日間床中に暮しました。

十五日の小豆粥に漸く元氣を恢復して、出社して見れば暦ははや一月の半ばを消してゐます。嗚呼。

泣いても笑つても右の始末では、山の樣にお知らせすべき内容はたまつてゐても、何ともなりませんでした。

出版委員會は七八名居りますが、大部分職業持。婦選編輯が宮川氏で會報は私といふ受持であつて見れば婦選二月號も中止は出來ずと、かくの如き次第何卒御赦し下さるやう謹しんでお詫び申上げます。

とにかく私も本復いたし、事務所も、遂に殿に倒れた小泉さん以外には皆々舊態に復しました事とて、今月だけ廿日發行にすれば、後は常態に戻り得ると信じます。本號には記念會上京諸氏の寄稿その他の計劃、皆空に了りましたが、何卒止むを得ない事と御認めの上お許し願ひます

（金子しげり）

× × × ×

昭和五年一月十日發行
每月一回十日發行（非賣品）
編輯發行兼印刷人　市川房枝
東京麴町四ノ五
婦選獲得同盟發行
電話九段一七一九番
振替東京七〇三八三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA